

2018年JAF東北ダートトライアル選手権第5戦 JMRC東北ダートトライアルチャンピオンシリーズ第5戦
JMRC全国オールスターダートトライアル選抜第5戦
2018MSCあきたテクニカルダートトライアル [JAF公認No.2018-6206]

開催日：7月22日 開催場所：サーキットパーク切谷内 格式：準国内 主催：AKITA [クラブ登録No.加盟05026]

フォト&レポート / JAFスポーツ編集部



12台が出走のS1クラスは東北大学の院生、武者祐介選手が地区戦2年目で切谷内初優勝を飾った。



武者祐介インテガがアウェーの切谷内で貴重な1勝

JAF東北ダートトライアル選手権は、今季2度目の切谷内ラウンドとなる第5戦を迎えた。この第5戦から最終戦となる第7戦までは、すべて切谷内が舞台となる。シリーズの趨勢が一気に決まる3連戦の初戦という位置づけだ。

決勝当日はドライ路面が保たれ、各車、タイムアップとなったヒート2のタイムでほとんどのクラスは勝敗を決した。ヒート1はウェットタイヤで路面を確かめ、ヒート2、ドライタイヤに履き替えて勝負という選手が多かったようだ。

S1クラスはエビスサーキットで2戦2勝し、丸和でも2位に入った東北大学自動車部の武者祐介選手がランキングトップで切谷内に入り込んできた。しかし切谷内には、全日本戦でも表彰台に乗る実力を持つ地元の今隆志選手が壁として立ちはだかる。

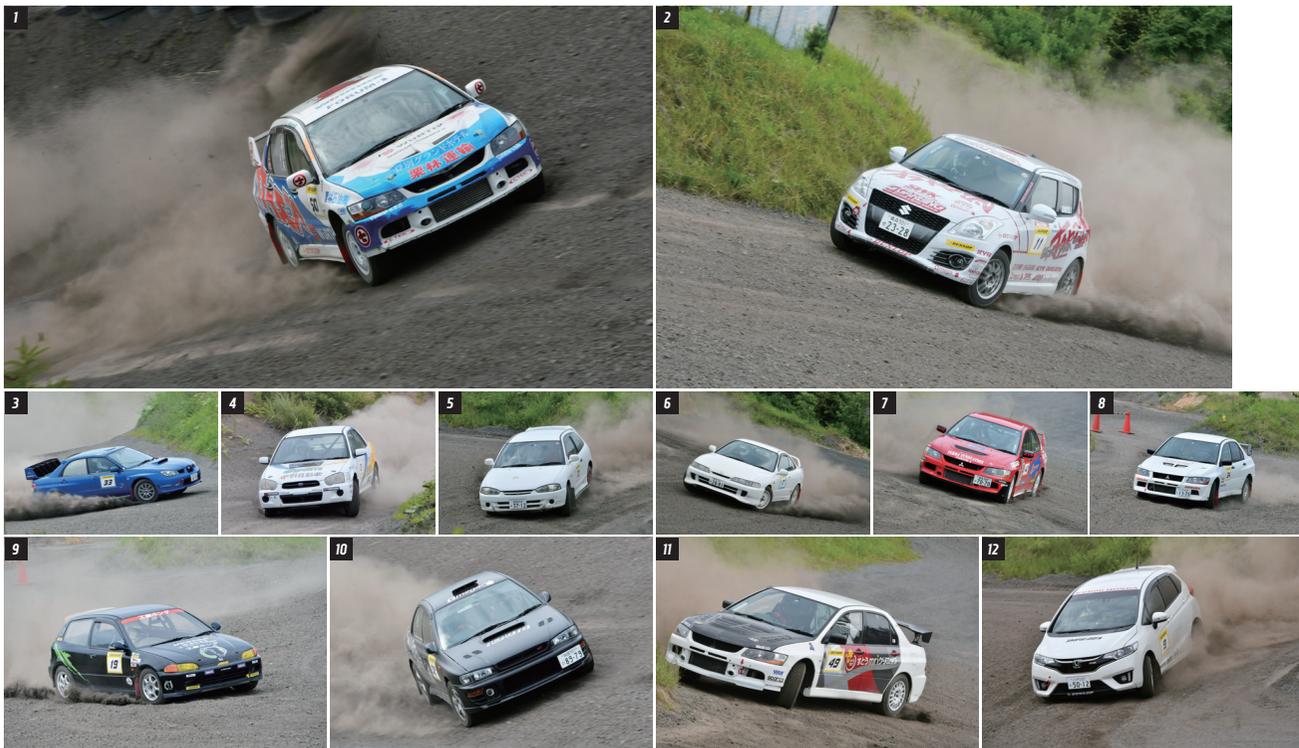
注目のヒート1は、まだ切谷内で表彰台に立つことがない武者選手が今選手を0.05秒抑

えて暫定ベスト。1分45秒台に叩き込んだトップ2のマッチレースの様相が濃厚になるが、ヒート2に入るとEG6シビックを駆る竹村由彦選

手が1分43秒22まで暫定ベストを更新して、ラスト2台のトライを待つ展開となった。最初にアタックした武者選手は竹村選手のタ



参加21台と最大の激戦区となったS2クラスは大西康弘選手がオーバーオールウィンのタイムで貫禄勝ちを見せた。



タイムをさらに0.44秒詰めて1分42秒台までタイムを上げるが、今選手は44秒38に終わって勝負あり。切谷内初優勝を飾った武者選手がタイトルレースでも大きな意味を持つシーズン3勝めを獲得した。

「切谷内はあまり得意じゃなかったんですけど、色々な選手の車載映像をネットで見てイメージトレーニングしてきた成果が出せたと思います。意外と思ひ通りに気持ちよく走れました。今さんのミスにも助けられました。狭い所でもコース幅を使い切った走りができたのは自分としては成長できた部分だと思います」と武者選手。対する今選手は、

「1コーナーで突っ込み過ぎたのがすべてでした。その後はイケイケで挽回しようとしたんだけど、何か所かギアが入らなくなって、リズムを崩してしまいました。ちょっとクルマ的にも厳



しい状況でしたね」と悔しさを滲ませていた。
東北大学自動車部といえば、ここ数年、全日本ジムカーナ選手権に小武拓矢、下河辺友貴といった精鋭を送り込んでいることで俄然、注目を集めているが、グラベルモータースポーツ界にも楽しみな若手が現れた形だ。「卒業してもダートラは続けたい」という武者選手。今後の活躍に期待したい。

S0クラスは地元の全

日本ドライバー、佐藤卓也選手が2本とも大差をつけて見事勝ちを見せたが、「考えていたタイムには及ばなかった。もっと行けるはず」と反省しきり。

「5月にこの全日本で勝った山崎さんの走りを見たりしながら、走りを変えてる最中なんですけど、うまく走れないんですよ。武者選手のタイムからこんなに離されちゃダメなんですけどね」と首を捻っていた。このクラス、2位には全日本組の葛西一省選手を抑えたフィットの坂本貴選手が入っている。

S2、Dの2クラスも全日本組の大西康弘、アキマただゆき両選手が順当勝ちを見せたが、アキマ選手はヒート2でインに引っ掛けてリム落ちたため、平凡なタイムに終わり、ヒート1のタイムで逃げ切った形に。

この結果、オーバーオールウィンはヒート2でただ一人、1分35秒台に入れた大西選手が獲得。残り2戦、クラスを越えた総合トップの座を巡る戦いも注目を集めそうだ。



16.S0クラス入賞の皆さん。17.Dクラス入賞の皆さん。18.S1クラス入賞の皆さん。19.S2クラス入賞の皆さん。